

編集後記

第九回地域民教交流集会記録（「子ども・学校・地域―④」集の発行が遅れに遅れて、恵那集会記録集のあとおいになってしまいました。おわびします。

しかし、「あゆみ」発行が駄目になり、予定した執筆者数名から未だ返事がないまま（三回便りした）ここまですり、最後に原稿の届いたのが四月の七日でした。

でもどの原稿も、一人ひとりの子どもの発達をねがい、新鮮で、豊かで、探究的な文章に私は感動し、教えられ、遅れたが、発行はどうしても、と思わされました。

子どもを守り、都民の期待にこたえる都教組運動（服部氏）には、「古いカラをぬぎずてて」いく教職員労働運動を見て感動し、長野中央病院、小児科の方々の集団的な記録には「子どものすこやかで、たくましい発達を」ねがう医療集団の人間らしさを見て、新潟県の中に知らせ

て……と思いました。多くの人に読んでほしい本です。（T）

第二校だというのに、とんでもない誤植がある。やっと終わった。お茶を一杯飲んで、念の為読みかえして見る。まだある。ここにもあった。これで校正は大丈夫だろうか。

気軽に引き受けたのは、「報告集」だからレポートをまとめるだけ、これとこれとこれ、と出版社に言えば、原稿依頼から編集、校正みんなやってもらえる、と思ったのがそもそもその認識不足。

原稿は集まらない。出版社は降りてしまう。翌年の恵那集会の報告集が先にもう出来てしまった。幸い、にいがた県民教育研究所から発行することになり、事務局長の木村先生が、実務を全部やってくれた。プロの編集者顔負けの仕事ぶり。超人的な努力に、心から敬意と感謝を申し上げたい。後は、一人でも多くの方に読んでもらうだけ。頑張ろう。（Y）